

工事名：上飯野新町一丁目地区配水管布設替(その1)工事

質問	回答
<p>・発注者からの事前の工事説明・説明会等は当該所轄警察・周辺工場/業者・地域住民には十分に行われているでしょうか。</p>	<p>地域住民への説明は、受注者が決まり次第、町内会長を通じて文書等で周知し、別途周知が必要な店舗等に関しては個別に案内を行う予定です。</p>
<p>・設計断面に砂質土、と明記されておりますが、これは土質調査をした結果と考えてよろしいでしょうか。また建設発生土の欄に種別の記載がありませんが、土質、特殊改良材などにより受け入れ先の受入金額が大きく変動しますが、その場合は設計変更・金額変更していただけますでしょうか。</p>	<p>既設管台帳の資料から、砂質土と想定しておりますが、現場条件に変化が生じた場合は受注者と協議します。</p>
<p>・設計書において公共残土受け入れ箇所が記載されておりますが、想定している建設発生土受け入れ箇所は隣接工事含む本件の発生土量すべての受け入れを間違いなく無条件で可能との返事を受けての選定でしょうか。また相手先より受け入れ不可能・条件付き受け入れなどがあった場合の受け入れ業者の再選定、及びそれにかかる金額の変更は設計変更にて対応していただけますでしょうか。</p>	<p>建設発生土の搬出先は、土木標準積算基準書に基づき、現場から一番安価の場所を選定していません。設計書で明示した公共残土仮置場において、受入不可の場合は受注者と協議します。</p>
<p>・本設計は山間部ではない箇所であるにも関わらず、HPPE にての施工となっておりますが、耐震性能が耐震鑄鉄管と比べはるかに劣り、東日本復興事業等では採用がされなくなったHPPE にて設計されている理由を教えてください。</p>	<p>「富山市水道施設耐震化計画」において、ポリエチレン管(融着継手)は耐震機能を有する管種ですが、急傾斜地等のダクタイル鑄鉄管の使用が適さない箇所に限り採用しております。本工事においては、経済性及び施工性をダクタイル鑄鉄管と比較するために上記条件以外の箇所においても試験的に採用しています。</p>
<p>・凍結工による施工が計上されておりますが、既存の仕切弁の密閉性能は確認されておりますでしょうか。またそれらに不安材料がある場合、断水規模拡大での施工、もしくはエアバッグ工法の追加などでの対応はしていただけますでしょうか。</p>	<p>本工事における凍結工は南側C型連絡撤去時に既設管に施すものであり、施工箇所を断水するうえで密閉性が必要となるのは仮設仕切弁となるため、受注者はその仕切弁の密閉性を確認のうえ設置するよう指示します。(別紙参照)なお、既設管の材質が設計と異なったりなどの理由により凍結工が施工できない場合は受注者と協議します。</p> <p>別紙については、電子入札システムに掲示(ZIPファイル名の最後がnewlになっています。)してありますので、お手数ですが、再度ダウンロードしてご確認いただけますようお願いいたします。</p>
<p>・保安要員が1～2名と記載されておりますが、現在保安要員の確保が極めて困難な状況にあります。安全を確保した上で、仮設信号機などでの代替は可能でしょうか。</p>	<p>交通誘導員が確保できない場合は道路使用許可条件に基づき、受注者と協議します。</p>

質問	回答
<p>・工期の設定が降雪時期であることを考えると非常にタイトなものになっているように感じます。週40時間労働制が厚生労働省・労働基準監督署でも推奨されておりますが、工期・施工期間の設定はそれを元に算定されていると考えてよろしいでしょうか。また以前水道事業実務必携に基づき工期の設定をしている、とご返答いただきましたが、「具体的に何ページの基準・数値に基づき算出」しておられますか。ページ数の提示でのご返答をお願いいたします。</p>	<p>配水支管(φ300以下)においては配水管設計基準(富山市上下水道局)P57～P59に基づき、降雨等による不稼働日、祝日を考慮して工期設定をおこなっております。</p>